

主体的に「人権」を考える新しいやり方としての「人権社会学」。「公共の福祉」で調整できない「権利衝突」問題の社会学的解決を模索する！

～人権社会学の可能性を考える連続シンポジウム(2)～

2021年

10月10日(日)

10:00～12:30

ZoomとYouTubeにて行う  
Web公開シンポジウムです

## ■本シンポジウムの趣旨と概要■

スポーツとはなににでしょうか。それは、同じ条件のもとで人間が身体能力を競い合う活動です。

でもどうすれば条件は“同じ”になるのでしょうか？ いろいろ用具も使いますが、どこまでが“身体”で、なにが“能力”なのでしょう……。

この根本的な問題を考えさせてくれるのがパラリンピックであり障害者スポーツです。

そしてそれは、スポーツに限らず、この社会が「同じさ」をいかに作り上げうるのかという、人権問題にも直結した問いをなげかけています。

本シンポジウムではそのようなテーマを、皆さんとともに考えていきたいと思います。

# パラリンピックから考える 新しい人権/人権社会学

★主催：日本学術振興会科研費研究(下記)／代表者：樫田美雄(神戸市看護大学)  
障害社会学の方法論としてのエスノメソドロジー—人々の経験に正対する社会学の探求

## 【ご参加について】

- 対象：高校生のみなさん、高校の「公民科」関係者のほか、「総合的探究」関係者や、大学教員の方も歓迎いたします。
- 開催方式：ZoomとYouTubeで同時開催します。
- 申込み：いずれで視聴する場合も、下記「お申込みはこちら」記載のURLかQRコードから申し込んでください(専用Googleフォームに飛びます)。
- 費用：登録・参加費はともに無料です。
- その他：シンポジウムのYouTube Live視聴用URLも、下記の公式Twitterで公開する可能性があります。

## 【ともに考えるメンバー】

報告者：

渡 正(順天堂大学・スポーツ社会学)

樫田 美雄(神戸市看護大学・社会学)

+ 高校生の皆さん

コメンテーター：

杉浦 真理(立命館宇治中学校高等学校)

司会：

小川 伸彦(奈良女子大学・社会学)

## 【お申込みはこちら】

<https://forms.gle/bGwdLa8ShCeRvoW27>

QRコードからも申込フォームにアクセスできます→



## 【公式Twitterはこちら】

<https://twitter.com/jinkensociology>

開催案内を掲載。

随時更新していきます。

QRコードからも  
アクセスできます→



## プログラム

- 10時 企画趣旨説明  
司会者:小川 伸彦

- 10時10分 第1報告 **渡正**  
身体や能力の違う人がどのように競うのか? —パラリンピックから考える「仕組み」の話

障害者スポーツには、様々な身体的(知的・精神的)状況にある人が参加しています。一人ひとりの様々な「違い」を無くしたり、活かしたりして共に競うことができるでしょうか。そのヒントを障害者スポーツから考えます。

- 10時35分 第2報告 **樫田 美雄**  
障害者スポーツ選手は、障害者なのか、スポーツ選手なのか —東京2020パラリンピックの現実—

パラリンピックは、「障害者スポーツの祭典」?それとも、「障害者アスリートの祭典」?この2つにはどんな違いがあるの? 主要報道機関が扱わない「東京2020オリンピック/パラリンピックに出場できない選手問題」を扱います。

- 11時 高校生からの質疑と応答
- 11時40分 休憩・質問受付
- 11時50分 コメント **杉浦 真理**
- 12時 フロアも交えた質疑や討論
- 12時20分 登壇者ひとこと
- 12時25分 まとめ・諸連絡

### ●参考図書

樫田美雄・小川伸彦編(2021)  
『〈当事者宣言〉の社会学』東信堂。

榊原賢二郎編著(2019)  
『障害社会学という視座』新曜社。

## 登壇者紹介

### 渡正 (わたり ただし)

- 順天堂大学スポーツ健康科学部准教授、博士(学術)
- 略歴:筑波大学大学院人間総合科学研究科体育科学専攻単位取得退学
- 専攻:スポーツ社会学、障害者スポーツ論
- 著書・論文:「スポーツにおける身体の範囲」『現代文化人類学研究』21 2020年、「スポーツ社会学におけるコーチング研究の可能性」『スポーツ社会学研究』28(2) 2020年、『2020東京オリンピック・パラリンピックを社会学する』新評論 2020年(共著)、『1964年オリンピックは何を生んだか』青弓社 2018年(共著)、『〈当事者宣言〉の社会学』東信堂 2020年。

### 樫田 美雄 (かしだ よしお)

- 神戸市看護大学看護学部教授、博士(社会科学)
- 略歴:東京都立大学大学院博士前期修了、筑波大学大学院博士課程社会学専攻中退。
- 専攻:福祉と医療の社会学・障害者スポーツの社会学。最近「障害社会学を踏まえた人権社会学」を構想中。
- 著書・論文:「スポーツ社会学が実践の学になるための2つの方法」『スポーツ社会学研究』28巻2号 2020年、「障害社会学の立場からの障害者スポーツ研究の試み」『障害社会学という視座』新曜社 2019年、『〈当事者宣言〉の社会学』(共編)東信堂 2021年、「人権社会学としての『〈当事者宣言〉の社会学』」『現象と秩序』14号 2021年。

### 杉浦 真理 (すぎうら しんり)

- 立命館宇治高校教諭(社会科)
- 略歴:2002年より現職。2008年、大阪教育大学大学院教育学研究科修了。修士(教育学)。2020年より大阪大学非常勤講師を務める。全国民主主義教育研究会機関誌編集長。
- 著書:『シティズンシップ教育のすすめ』法律文化社 2013年、『感染症を学校でどう教えるか』(編著)明石書店 2020年、『未来の市民をはぐくむ「公共」の授業』(編著)大月書店 2020年、『多文化共生のためのシティズンシップ教育実践ハンドブック』(分担執筆)明石書店 2020年。

### 司会:小川 伸彦 (おがわ のぶひこ)

- 国立大学法人奈良女子大学文学部教授
- 略歴:京都大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。
- 専攻:社会学
- 著書・論文:『文化遺産の社会学——ルーヴル美術館から原爆ドームまで』(共著)新曜社 2002年、『社会学の基本 デュルケームの論点』(共編)学文社 2021年ほか